

科目名	声楽 1		科目コード	1950	
開講学科	教職課程	単位数	2	形態	実技
教員名	東野亜弥子・村井幹子・宇仁 節・川野名康夫・小針絢子・斉藤紀子・黒澤明子・中島恵美・河田早紀・福井雅志・島中 彩・秋本靖仁				
授業の目的及びテーマ					
<p>声楽を学ぶ者にとって必要な基礎を、個人レッスンで習得する。 正しい発声を身につけ、美しい歌唱とは何かを研究し、イタリア古典歌曲、日本歌曲を通じて、音楽の美しさ、歌うことの楽しさを体感する。正しく楽譜を読み、声を楽器としてコントロールしていくことを身につける。</p>					
授業概要					
<p>「声楽1」スクーリングでは、イタリア古典歌曲、日本歌曲を通して、声楽を学ぶうえでの基本的な発声、音程、姿勢、表現などを含め、演奏に関わる基礎を研究する。又、コンコーネ50番を教材とし、楽譜を正しく読み、階名、リズム、音程、楽語、記号に忠実な歌唱を身につけていく。面接授業の出席と、実技能力、学習意欲をもって総合的に成績を評価する。</p>					
授業計画					
<p>第1回：声楽の基礎となる呼吸、母音を使った正しい発声法を体感する。コンコーネ50番練習曲を1番から順番に進め、正しい楽譜の読み方を学ぶ。 第2回：正しい呼吸と発声を習得し、歌唱に活かす方法を研究する。コンコーネ50番練習曲を順に進めていき、音程、リズム、階名を正確に歌うことを実践していく。 第3回：正しい呼吸と発声を使い、イタリア古典歌曲の美しい歌唱を学ぶ。イタリア語の発音、単語や詩の理解を深め、メロディの美しさをどのように声で表現していくかを考え、会得していく。コンコーネ50番練習曲を進め、楽譜に忠実な歌唱を身につける。 第4回：イタリア古典歌曲を正しい呼吸と発声で歌う。表情豊かに外国歌曲を歌うために必要なことは何かを考え、教員から受ける個々に合ったアドバイスを、練習を重ねて身につけていく。コンコーネ50番練習曲を進め、複雑なリズムや跳躍する音程を正しく歌うことを身につける。 第5回：コンコーネ50番練習曲を進め、楽譜に忠実な歌唱をより確かなものにしていく。楽語、スラー（レガート）、プレス、音の長さ、休符を今一度よく見直し、これまで学んだ曲をより丁寧に仕上げている。イタリア古典歌曲をより音楽的に歌えるよう追求する。日本歌曲の美しい歌唱を学ぶ。 第6回：これまで進めてきたコンコーネ50番練習曲を丁寧に復習し、楽譜に忠実な歌唱ができているかどうかを細かくチェックしていく。イタリア古典歌曲のレパートリーを増やし、美しい外国歌曲に多く触れていく。日本歌曲を美しく歌うために必要なことは何か、レッスンを通じて考え、身につけていく。 第7回：これまで進めてきたコンコーネ50番練習曲の中から、教員が指定した1曲を歌う。楽譜に忠実な歌唱は、今後、様々な曲に出会う中で、必ず求められていくことである。それをしっかりと実感し、これからの演奏に活かしていく土台を確かなものにする。 第8回：イタリア古典歌曲、日本歌曲の美しい歌唱を身につける。イタリア語の単語や詩を理解し、正しいアクセントを学び、詩を読み、言葉を大切に歌唱を追求する。日本語の美しい歌い方を追求し、情感あふれる歌唱を正しい発声を用いて会得していく。 第9回：イタリア古典歌曲、日本歌曲のレパートリーを増やし、できるだけ多くの作品に触れ、歌唱経験を積み重ねていく。作曲家による作風の違いや、長調の曲、短調の曲、ゆったりとした音楽、軽快な音楽というように、雰囲気の違いが異なる曲の歌唱を体験していく。自分に合った曲を見つけ、自分自身の声の個性を知り、伸ばしていく。 第10回：自身に合ったイタリア古典歌曲、日本歌曲を見極め、曲を仕上げている。暗譜での歌唱を目指し、楽譜を正確に覚えて歌うことを身につけていく。 第11回：楽譜や詩を覚えて歌うことの意味を理解し、表情豊かな歌唱を身につける。単純に暗譜をするだけでなく、なぜ暗譜が必要なのかというところに目を向け、ひとつの作品として演奏することを目標に、歌唱技術に磨きをかける。 第12回：説得力のある演奏、伝わる演奏とは何かを考え、歌唱技術の向上と、感情表現豊かな歌唱を追求する。技術を高め、詩の内面を読み解き、その心を、声で表現していく具体的な方法を探る。 第13回：試験に向けて、暗譜での演奏、完成度の高い演奏を目指し、歌唱の充実を身につける。 第14回：試験に向けて、曲の完成度を高め、むらのない安定した歌唱を身につける。 第15回：これまでレッスンを受けた、イタリア古典歌曲、日本歌曲、各1曲を、暗譜で演奏する。声楽作品として、これまで研究してきた歌唱技術や、音楽、詩の内面を、声で表現することを体感する。</p> <p>備 考：基本的な授業計画は、上記の通りであるが、受講生の経験や技量により、担当教員の判断で課題を進めていくものとする。 第1回、第2回で、コンコーネとともに、イタリア古典歌曲、日本歌曲を進めることも可能である。 又、第8回から第14回において、イタリア古典歌曲、日本歌曲とともに、コンコーネを引き続き進めていくことも可能である。</p>					
テキスト	<p>「イタリア歌曲集1 中声用 新版」畑中良輔 編（全音楽譜出版社）※旧版でも可 「日本歌曲集1」（全音楽譜出版社） 「コンコーネ50番 中声用」（全音楽譜出版社）</p>				
評価方法：					
<p>受講態度、実技能力、学習意欲などにより総合的に評価する。</p>					